

コーポレートガバナンス・オブ・ザ・イヤー 2021 Grand Prize Company/ Winner Company 選考プロセス

(1) 概要

東京証券取引所 第一部上場企業を対象とし、コーポレートガバナンスを用いて、中長期的に健全な成長を遂げるために、取締役会の改革を実践している企業、コーポレートガバナンス・コードを遵守し、CGSガイドラインを踏まえた取り組みを行う企業を表彰します。表彰社数:Winner Company を選定し(数社)、うち1社を Grand Prize Company として選出し、公表します。毎年1回、表彰を行います。

(2) 実施内容

審査のポイントは、審査において、1)コーポレートガバナンス・コード全原則¹が適用される東証1部上場企業(2,189社、2021年8月1日現在)の中から、2019年~2021年を通じて社外取締役3名以上を選任していた企業1,067社を対象に、2)稼ぐ力の指標として、非金融3期平均ROE10%以上²、ROA4%以上³、金融3期平均ROE10%以上、ROA2%以上、また3)社会への貢献度の指標として時価総額2,000億円以上である企業128社を選びました。

次に加点要素として、4)ガバナンス体制整備の指標として、特定の大株主がない、開かれた株主比率(30%以下)、独立社外取締役比率(3分の1以上)、組織形態(指名委員会等設置会社)、指名・報酬委員会(任意も含む)の設置、5)取締役会の多様性、6)指名・報酬委員会(任意も含む)委員長の独立性、取締役会議長の執行からの独立性、7)パフォーマンス評価として、みさき投資による経営指標分析を活用、時価総額や営業利益の安定性などの総合評価を行い、Winner Company 3社を選出しました。

最後に8)審査委員によるトップマネジメントへのインタビュー調査を行い、Grand Prize Company 1社を決定しました。

候補企業群の経営力の判定には、みさき投資の企業分析の枠組み「みさきの黄金比®」を活用しました。これは経営指標間のあるべき関係、「 $ROE \geq ROIC \geq ROA \geq WACC$ 」を示した式で、左から「事業リスクに見合った財務リスクの取り方」「余剰資産を持たない経営」「資金提供者の期待リターンを上回る資本生産性」という観点を満たしているかを評価する枠組みです。

¹ 平成30年6月改訂、令和3年6月再改訂。

² 伊藤レポート「持続的成長への競争力とインセンティブ～企業と投資家の望ましい関係構築」プロジェクト最終報告書(2014年8月)金融業はROAなど他の指標も考慮する。

³ 2021年度は新型コロナウイルス感染症の業績への影響を勘案して、昨年よりROAを1%下げて4%に設定した。

企業名	時価総額 (億円)	みさきの黄金比®						
		ROE		ROIC		ROA	WACC	
ソニーグループ	136,384	21.7	<	43.7	≥	4.1	<	6.6
東京エレクトロン	75,587	25.8	<	39.5	≥	22.5	≥	8.9
ピジョン	3,808	22.6	<	35.1	≥	22.4	≥	5.5

※ みさき投資株式会社 『働く株主®』をコンセプトとしたエンゲージメント投資を専門とする資産運用会社。2013年に設立され、現在企業年金・大学基金など国内外の投資家から資金を受託し、日本の優れた上場企業10数社に厳選した長期投資を行っています。